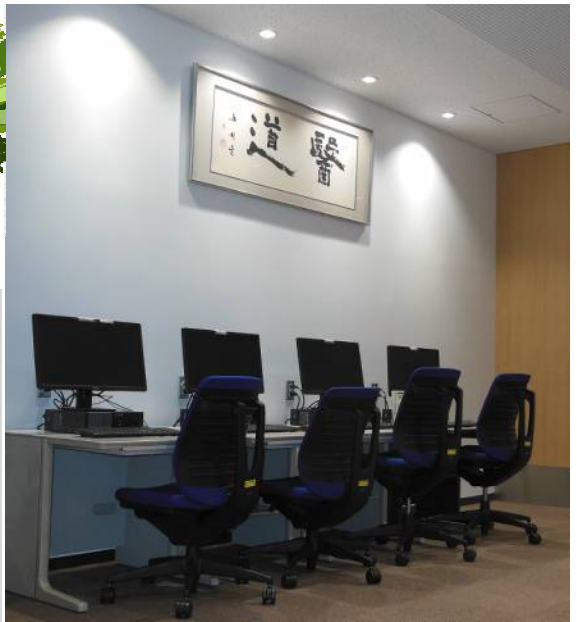




LIBRARY NEWS

No.39, May 2015

39



□ 5月の図書館展示について

□ 私のお勧め本 第25回

看護学の升田教授が『看護の時代』『看護の力』を紹介します。

□ 図書館からのお知らせ

特別利用を希望する学生への説明会について

図書館展示「私のお勧め本」集中展示 / 医大祭講演会連動展示



図書館の一角に並べられたこれらの本、
「北海道共和国のオキテ/100カ条」・・・「医学探偵ジョン・スノウ」・・・「質的研究を科学する」はたまた、「白い航跡」・・・？

いったいどんな並び方？ただ乱雑に置かれただけ？

いいえ！これらは、この「LIBRARY NEWS」の創刊以来、紙面で本学の先生方が学生みなさんにお勧めしてきた本たちなのです。

その数**約40冊！**

現在、その全てを図書館1階の南棟への通路にて、展示中です。ぜひ一度手にとって、

眺めてみてください。もちろん、全ての図書は貸し出すことができます。

LIBRARY NEWSに掲載されている紹介記事も、同じ場所に掲示してあります。先生方からの熱いメッセージと共にどんなところがオススメなのかも、ぜひあわせてご覧ください。

「私のお勧め本」展示は、5月上旬まで行っています。



また、引き続き5月後半からの展示は、「**医大祭講演会連動展示**」を予定しています。医大祭講演会実行委員が、図書館のスペースを利用して、講演者の方の著作物展示を企画してくれました。

今年の講演者は、産婦人科医の**宋美玄先生**です。性問題ということで、なんとなく照れちゃう話題かもしれませんが、この問題を正面から取り上げ、積極的な啓蒙活動をされている先生の本を、この機会に読んでみてはいかがでしょうか。





私のお薦め本<第25回> 升田 由美子 教授 (看護学)

読書というものは、読もうという意志をもって書籍を手に取り、初めて実現する能動的活動です。どうせ読むなら面白い本を選んでほしい！と思います。

これから「看護」を学び、将来の看護界を担っていく皆さんに読んでいただきたいのは『看護の時代 看護が変わる 医療が変わる』です。著者の日野原重明氏(聖路加国際病院理事長)と石飛幸三氏(芦花ホーム)は医師、川島みどり氏(日本赤十字看護大学名誉教授)は看護師であり、それぞれの看護に対する熱い思いと期待を表現しています。本書の中核である第2章の鼎談(ていだん:三人が向かい合って話をする)は読書が苦手な人でも容易に読み進めることができます。



“看護師だけが看護の世界について論じたものではない(あとがきより)”のが本書の特徴であり、医学科の皆さんにも手にとってもらいたい書籍です。



看護の力
/ 川島みどり著
図・文庫新書
コーナー
BS/Kan

併せて川島氏の著書『看護の力』もお勧めです。看護師として60年以上のキャリアをもつ川島氏の言葉は、ストレートに看護の本質に迫ります。我々が看護実践において原則としている「安全・安楽」は、川島氏らが1971年に発表した論文によって述べられた概念であるそうです。豊富な事例を挙げながら、またナイチンゲールの『看護覚え書』も引用しながら看護の力について述べています。今皆さんが学んでいる「看護」とは何か、今後どんな可能性を秘めているのかの概観をつかむことで、これからの大学生活がより一層充実することをお約束します。

看護の時代: 看護
が変わる医療が変わる
/ 日野原重明, 川島
みどり, 石飛幸三著

図・開架書架/看護
学 WY/9/Kan

図書館からのお知らせ

医学科5・6年生/看護科4年生の
特別利用を希望する方へ
説明会開催のお知らせ



5月以降も下記の日程で、説明会を開催します。利用を希望する方は、参加し、申請してください。途中からの参加はできませんので、南棟ディスカッションスペースの所定の場所に着席してください。申請の際に、学年を確認しますので、学生証はお忘れなくご持参ください。

- 5/11(月) 17:15-17:30
- 5/12(火) 17:15-17:30
- 5/27(月) 17:30-17:45
- 5/28(木) 12:30-12:45
- 6/ 8(月) 17:30-17:45
- 6/ 9(火) 12:30-12:45
- 6/24(水) 17:30-17:45
- 6/25(木) 12:30-12:45

他の学年の皆さんへの説明会の開催については、6月頃学生メールでお知らせします。

大学に入学してからというもの私は本と様々な付き合い方をしてきました。

課題をこなすための道具にしたり、知への探究心を満たす拠り所としたり、落ち着いた時間を過ごすお供にしたりと関わり方は時によって、様変わりしますが、その時々を求める本の出会いの場は主に図書館でした。

タイトルを頼りにピッタリの一冊を手探りで探せた瞬間とその本と過ごす時間は、図書館で本と出会うからこそ味わえる醍醐味のひとつだと感じています。

たくさんの目に見えない情報をネットですぐ引き出せるのは便利でうれしいもので、実際私はすぐ頼ってしまっています。

しかし、本という実体に手で触れて得た情報はそれよりもっと自分の一部となり、後までよく自分の中に残っているような気がしませんか？私はそんな気がします。

図書館のバイトを始めてからの2年間で、利用者の皆様の手で探さだして読んだ本を棚に戻す作業を通じて自分の手だけでは辿りつかなかった本との出会いが増えました。

利用者の皆様にとっても図書館がそんな特別な存在であり続けるようにお手伝いさせていただきたいと思っています。カウンターで今年も皆様をお待ちします！
(学生スタッフ I)

